

# 豆田町並み通信

第39号

発行者  
豆田町伝建  
保存会  
23年12月

## 天領まつり・千年あかり に十七万人の千人あかり

本年十一月十一日より十三日にかけて行なわれた第七回千年あかりと第三十二回天領まつりは、三日間とも祭り日和に恵まれ、昨年を二万人越える十七万人が祭りに訪れました。

千年あかりでは、初日が東日本大震災から丁度八ヶ月になる事から、オープニングの点灯式では参加者全員で黙祷をおこないました。

今年、咸宜小、桂林小、日隈小、光岡小の子供たちが作った約七〇〇本の和紙灯籠には東北の復興を願う祈りなどが書かれていました。

また林工生がつくった竹灯籠や町中オブジェにも「がんばれ日本」などの激励の言葉が目立ちました。

また天領まつりの初日には日田の礎を築いた先哲に感謝する「先哲祭」が行なわれ、翌日の祭りのハイライトである「郡代着任行列」では、一般公募で募集し、行列前日の十一月十二日に結婚された日田市在住の桜木夫妻が郡代とその奥方役に選ばれ、沿道では多くの祝福の拍手が聞こえました。



林工生600名の応援で初日の着火作業もスムーズに進む



サッポロのイメージガールの葉山ミカさんの合図で一斉点灯

天領まつり・千年あかり  
寸描



河川敷の特設舞台では雅楽の演奏



頑張れ東北の文字が書かれたオブジェ



燎原の火の様に広がる竹灯かり



行列を見ようと集まった黒山の人だかり。(上町・薫長酒造前)



郡代着任行列の出発式で挨拶を行う原田市長。後方は桜木郡代(一般公募)



先哲祭で、先哲を称える「顕彰の言葉」を述べる古賀振興会長

## 保存審議会開催！

十一月二十五日（金）、今年度第二回目の「日田市町並み保存審議会」が開催され、平成二十四年度に予定されている修理・修景事業について協議しました。

このなかで、二十三年度から修理を進めている物件（三棟）に加えて、伝建事業で三件、街なみ環境整備事業で二件について審議し、修理を行うにあたって建物の居住性と安全性を確保する事と、建物を建築当時の姿に戻す事との整合性について、突っ込んだ議論が交わされました。文化庁の指導の下、建物の特性なども考慮し、慎重に進めて行く事で承認されました。

また、現在進められている「防災センター」の整備計画、道路の美化計画が提案され了承されました。



次年度の修理事物について  
審議する委員

## 防災部会開催！

九月十六日（金）、六月の総会で組織された「防災部会」の第一回会合が開催され、委員二十名が参加しました。

まず最初に、部長に波多野平会長代行を、副部長に豆田第一、豆田第二、港町の自治会長をそれぞれ選出しました。

その後市側から「防災まちづくり計画の概要」が説明され、防災意識の高いコミュニティづくりをどう進めていくのか話し合いました。

また防災の拠点となる防災センターについて、旧古賀医院は元あった位置に曳き戻し、観光案内機能や地域の交流拠点の機能を持った施設として整備していく事を確認し、細部にわたっては今後協議していく事としました。



防災まちづくり計画を論議した  
「防災部会」の皆さん

## 保存修理見学会開催！

九月十五日、十一月二十七日の二回にわたって本年度の修理事物になっている岩尾典子家（日本丸）の離れや赤司裕昭家の修理についての説明会が開催され、地元住民や林工の建築学科の生徒など延べ二十名が参加しました。

九月十五日は、岩尾家の建物について開催され、建物の基礎が軟弱なため、支柱（強固な地盤）3.5mまで鋼管杭を打ち込む作業を見学しました。

又、十一月二十七日は、赤司家など四件の修理現場を訪れ、古い建物を修理する為の伝統工法について説明をうけました。参加者は木材の確保や伝統工法を受け継いで行く事の難しさを感じていました。



伝統工法を学ぶ参加者→

## 城下町発掘調査 現地説明会開催！

九月二十三日、旧古賀医院跡地の城下町遺跡（中村家旧宅）の発掘調査について説明会が行なわれました。

発掘の結果、三つの建物の玉石、穴倉（あなぐら）一基、井戸一基が発見されました。

日田市文化財保護課の若杉竜太主査から、これらの建物の規模は四間×五間と豆田町の他の一般商家（通常は二間から四間）より規模が大きく、当時の町年寄りの建物の大きさが明らかになった事、「三丁目 中村」と書かれた有田焼の皿が出土した事から、元治元年作成の旧絵図に書かれてある中村家の土地であった事が裏付けられたなどの説明がありました。



若杉主査の話を熱心に聞き入る参加者